

# Frente

三重県男女共同参画センター  
フレンテみえ  
フレンテとはスペイン語で  
「前向き」という意味です。

vol.71  
2017.12

大特集  
Report!

男女共同参画フォーラム ～みえの男女ひと

減災・復興と男女共同参画 ～地域・企業・行政がいまできること～

「二歩踏み出す勇気を、あなたに」

## 予告

- おとこの“あみもの”どんなもの？  
～編み物男子・ことはじめ～
- 女性のための  
エンパワーメントスクール など

## 情報コーナーだより

New!!

- 新刊紹介  
『育児は仕事の役に立つ  
「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ』  
浜屋 祐子・中原 淳 (著)
- 『いろいろな性って何だろう？』  
渡辺 大輔 (監修)

## Report!

- フレンテみえ「カラダの日」
- さかした日出美  
一人芝居「電話の女」 など



## 基調講演

佐谷 説子さん

〔内閣府政策統括官(防災担当)付参事官  
(普及啓発・連携担当)〕

内閣府が取り組む防災の目的は「国民の生命・財産を災害から守ること」ですが、これまでは「科学が進めば地震は予知できる」ということを対策の前提としていました。しかし、2017年9月に「(科学が進んだ結果)確度の高い地震予知は困難である」という重要な報告が出たため、新しい方法を考えなければならなくなりました。南海トラフなど大規模地震では被害想定も大きくなりますが、その前提だった地震予測が難しいなか、被害を少なくするための対策をどう立てていくのかは大きな課題です。

## 熊本地震から見えた「課題」

日本の防災政策は絶えず見直しを行っていますが、昨年の熊本地震は大きなターニングポイントとなりました。地震の直後には、内閣府男女共同参画局から「男女共同参画の視点での避難所運営を」という指示を出し、内閣府職員が避難所を回って確認も行いました。これは新しい取組でしたが、政策は進んでいる一方で、新たな課題もどんどん見つかっています。

まず、避難の形態が多様だったことです。指定避難所では足りず、ピーク時には800か所もの避難所ができ支援が届きにくいところもあるなか、在宅避難や車中泊をして物資だけを避難所に取りに来る方もいらっしゃいました。多様な避難者に対してどのような支援ができるのが課題となったほか、被害の認定が遅れ、罹災証明がもらえずに支援が進まないということも起こりました。

また、熊本地震では「関連死」が多かったことも特徴です。関連死は現在の認定数で199人と、直接被害の約4倍にも上ります。これは、これまでの災害ではなかったことで、「直接死を防いだ後にも戦いは続く」ということを示しています。

## ジェンダーや男女共同参画の視点から、考えていただきたいこと

1つ目は、「地域でできる防災対策は地域で」ということです。

これから起こりうるとされる災害はたいへん規模が大きく、支援のすべてを行政に任せることは難しいことが予想されます。行政も対応できる限界を認識して「自助・共助」について訴え始めています。「自分・地域でできること」はそれぞれで対策を進める、その必要性について考えていただきたいのです。

それには、これまで活動してきた「地域の力」を大切にしながら乗り切ることが重要です。日本は昔から地域がしっかり活動していて、その基礎は既にできています。ただ、その地域には「多様な人たちがいることを前提にしなければいけません。「被災者」というとどなたも同じように見られますが、男性、女性、LGBTや外国人の方など、「多様性」に配慮したアプローチが大切です。

2つ目は、「数字を集める」ということです。数字がわからないと良くなったかどうかわかりませんし、人を説得することもできません。避難所で女性への対応が必要となっても、その避難所の男女比や妊産婦の人数等がわからないと、説得力に欠け、対策を進めるのが難しくなることもあります。また、避難所で起こる性暴力についても具体的な件数等は把握しづらく、そこで議論が止まってしまうことがあります。数字は、国が調べるよりも地域のほうが把握しやすいこともあるでしょう。このことも地域の支援活動のなかで取り上げていただけると嬉しいです。

## 世界へ向け、日本から「防災と男女共同参画」の重要性の発信を

日本はこれほど災害が多発している国でありながら、ジェンダーギャップ指数が114位と、男女の格差がとても大きいという先進国の中でも特殊な状況にある国です。他にはなかなか見られない条件のなか、この「ジェンダー、男女共同参画と防災」ということについて、情緒的ではなく科学的な証拠などをもって日本ならではのメッセージを発するというのも、この国の在り方なのではないでしょうか。

このことについてもぜひ、皆さまにもお考えいただきたいと思えます。

続いて、コーディネーターの浅野幸子さんから、パネルディスカッションにつながる基礎的な情報等について、様々な事例を交えてお話しいただきました。

## 基礎講話

浅野 幸子さん

〔減災と男女共同参画研修推進センター  
共同代表／早稲田大学 招聘研究員／  
専修大学 非常勤講師〕

「災害」は、地震や台風などの自然現象(原因)が社会と出会ったときに引き起こされる被害の結果です。そして、その被害の大きさや対応力は平時の「社会体制」の影響によって変わるもので、さらに「性別」や「男女共同参画」「多様性」等の視点が大きく関わってきます。

特に女性の視点には、子どもやお年寄りなど様々な立場のニーズが含まれていて、女性から深く意見を聞いたり女性もリーダーになったりしていかないと、外部から必要な支援が届きにくくなります。また、男性も困難を抱え、飲酒量増加や自死の割合が高くなるなどの結果も出ています。

これまで災害対策は勢いと根性で進めてきたような部分もありますが、これからはしっかり男女共同参画の視点を持ったうえで科学的、合理的に取り組んでいかないと、救えるものも救えなくなってしまう可能性があります。女性や多様な立場の声を採り入れ、支援活動の「質」を上げていけるよう、普段からしっかり準備を進めていくことが大切です。

- ❖コーディネーター：浅野 幸子さん(減災と男女共同参画研修推進センター 共同代表/早稲田大学 招聘研究員/専修大学 非常勤講師)  
 ❖パネリスト：松浦 信男さん(万協製薬株式会社 代表取締役社長) 山本 康史さん(特定非営利活動法人 みえ防災市民会議 議長)  
 坂三 雅人(三重県防災対策部 次長) 長谷川 峰子(三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」事業課長)  
 佐谷 説子さん(内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(普及啓発・連携担当))

後半は基調講演・基礎講話の話を踏まえ、企業・地域・行政・男女共同参画センターそれぞれの角度から、防災・減災・復興における「多様性の視点」「連携」について考えていきました。

三重で起こるかもしれない大規模災害を見据えたとき、いかに被災した状況から命と健康を守りながら再建に立ち向かっていくのか、その根底にあるのが「男女共同参画」「多様性」の視点だと考えます。平常時と災害時の課題をどう連結させ、多様性の視点を踏まえながら防災対策を進めていくか、様々な主体がどう連携していくかについて意見交換しました。

松浦さんからは、阪神・淡路大震災で被災した教訓からの様々な取組の紹介とともに、「働ける場所が地域にないと人はそこに住み続けることができない。企業の経営継続が人生の継続、家庭の継続、地域社会の継続になる。」「一人ひとりができる生き方のなかで人を助けようという気持ちを持つこと、自分の会社だけでなく、『社会』を考え生きることがダイバーシティな生き方につながるのでは。」「相手の気持ちに立つこと、被災者の思いや心の部分に関しても議論できれば生きていく上でも役に立つのではと思う。」などとお話いただきました。

山本さんからは、被災地での事例から、「特定の人がリーダーシップをとることになると、その人が気づかなければ情報(ニーズ)のとりこぼしができてしまう。男女問わず色々な人が自分の価値観や問題意識を共有できる場所が必要。」「被災者もきちんと声を言葉にして説明するなどして『助けられ上手になる』(「受援力」

を高める)と、多様な課題が目に見える形となり、支援につながる。」「自分のことは言いつらくても隣の人の代わりに声を上げ

たり、女性がおしゃべりで得た情報を共感だけで終わらせず『〇〇に困っている人が何人いる』と数字にして伝えたりすれば、そこに支援の取り組みが生まれる。」支援側として「相手の気持ちに寄り添うために最低限の方法やエチケット・知識を覚えることで、心を補強できる。」などとお話いただきました。

三重県からは、県の防災対策について、様々な関係機関と連携して漏れのない対策をとるようにしていること、多様なニーズを吸い上げてきめ細かい対応が可能となるよう訓練を定期的に行っていること、県の「避難所運営マニュアル策定指針」で男女共同参画や障がい者等多様な視点に配慮するよう具体的に項目を盛り込んでいること等について説明するとともに、「日頃から顔の見える関係づくりができていないときめ細かくニーズの吸い上げをすることが難しいため、日頃のつながりが大切だと考えている。」とお話しました。

フレンテみえからは、「『多様性を大切に社会』は『災害にも強いまち』になると考え、平常時から『男女共同参画の視点からの防災』の考え方の普及を目指し啓発に取り組んでいる。」「知識を伝えて終わりではなく、その後どう現場に生かしていただくかが重要で、双方向から色々な視点が入るような関係づくりのためには地域の方や様々な機関とのつながりがより必要。」「過去の災害の中で、男女共同参画センターが関わった事例・経験をどうつなげていくかが重要である。」とお伝えしました。

まだまだ各パネリストから話をじっくり伺いたいところでしたが100分はあつという間に過ぎ、最後は浅野さんから「今日の話を持ち帰り、皆さんがそれぞれの場所で今後の防災対策を考えていただきたい。」と締めくくられました。



## 分科会 ①

(同時開催:「第30回 農山漁村のつどい」)

### 農山漁村における“共助”とは ~減災・復興と多様性について考える~

分科会①では、畜産女性の会「サンカラット」竹内友子さんから東日本大震災時の支援活動についての報告のあと、自分が住む地域で災害時にできる“共助”について、「災害直後」と「復興期」に分け、コメントーターの浅野さんを中心に、第1次産業に従事する参加者とともに話し合いました。浅野さんからは、「同じ地域でも被害は平等ではなく格差がある。避難所も多様で格差が起こる。だからこそ性別・世代を超えて異なる価値観の人々が意見を出し合うことが必要で、その体制を平常時から整えておくことが大切だ。」とお話いただきました。

さらに、分科会終了後には農山漁村のつどい実行委員会の皆さんによる物産販売会を行いました。生産者の方が大切に育てた野菜や果物、お肉がたくさん並び、大勢の方でにぎわいました。



## みえの防災対策

分科会②では、自然災害に対する心構えなど防災・減災の基本事項を学びました。アニメーションや動画を使った視覚的にも分かりやすい講義で、「活断層」や「特別警報」などニュースでよく耳にする言葉についての詳しい説明もあり、参加者の皆さんは傾きながら真剣に聴いておられました。講義の最後には参加者の皆さんから「緊急地震速報が出たときはどう行動すればいいのか?」「防災用品はどこで購入すればよいのか?」などの質問が次々に出され、身近な防災に対する関心の高さがうかがえました。



## 避難所生活における男女の困難軽減のために

長引く避難所生活のなかで起こる「性差による様々な困難」について、まずその背景にある「ジェンダー」とはどのようなものを踏まえたうえで、過去の事例をご紹介しながら必要な視点や今から準備できることなど「対策」についてお伝えしました。後半では「男女共同参画視点からの避難所づくり」ワークショップの様子をDVDで視聴。参加者からは、「平常時からの備えの重要性がよく分かった」「職場などでも聞いてみたい」などの声をいただきました。



分科会③のプログラムは、講師派遣事業「フレントーク」として県内どこでも出張講義いたします。詳しくはフレンテみえまでお問い合わせください。

## 鳥取県のシステムから学ぶ男女共同参画

鳥取県庁の女性管理職比率全国トップ水準の遂行・持続について、男女共同参画に関する施策やシステムを学ぶ事を目的に、加えて、そこで得た知見を三重県で活かすことも視野に入れ、鳥取県元気づくり総本部元気づくり推進局女性活躍推進課と鳥取県男女共同参画センター「よりん彩」への視察訪問を行いました。分科会では視察の報告があり、その後、質問、感想を受け「鳥取県で学んだ知見を三重県で活かすには」をメインテーマに、鳥取県で学んだ知見を三重県ではどのように活かすことができるか、どのようにして拡大するかなどを県民レベルで考え議論しました。



### 参加者からの声

- 鳥取県が男女共同参画に関して先進的であるのは、知事やセンター長のリーダーシップによるところが大きく、リーダーが考える方向性により、職員への教育研修のあり方も違い、職員の資質レベルの向上につながってくるのだという事実をみた。
- オンブズパーソンとして活躍されている「男女共同参画推進員」という存在に、強く関心を持った。これは三重県でも取り入れて良いと思う。 など

## 知ってますか? フレンテみえの 情報コーナー



フレンテみえ1階にある情報コーナーでは男女共同参画に関する本、雑誌が無料で借りられます。(事前登録要)  
 新刊も続々登場! 新刊の一例をご紹介します。  
 情報コーナーでは定期的に「フレンテみえ」オススメ図書を展示しています! ぜひ一度足を運んでみてください。  
 あなたの“LIFE”に新しい発見があるかも…

## 新刊紹介

『育児は仕事の役に立つ  
「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ』  
 浜屋 祐子・中原 淳(著) 光文社  
 育児経験は仕事面においても多くのポジティブな影響をもたらしてくれるということを、様々なデータから示されています。企業などの管理職の方、そして育児休暇を取ることに後ろめたさを感じている方にぜひ読んでいただきたい一冊!



『いろいろな性ってなんだろう?』  
 渡辺 大輔(監修) ポプラ社  
 最近、LGBTという言葉をよく耳にしませんか? この本はそんな「多様な性」について知るための入門書。大人から子どもまで、どなたでも読んでいただける本です。



# 今後の催し

1/27

## フレンテみえ情報コーナーミニセミナー 笑顔がふえる両立のヒント ～働く、育てる、暮らす。暮らしの工夫編～

私のキャリアや仕事も大切だけど、家族との時間や日々の暮らしも大切にしたい！  
そんな思いで仕事に家事に子育てに…と毎日奮闘されている中、みなさんが日々それぞれ実践している暮らしの工夫。自分からすると普通のこと・当然のことだと思っても、話してみると実は他の人にとっては「素晴らしいアイデア」かもしれません。  
3人集まれば文殊の知恵！「自分ひとりで家事や子育てを抱えない」、「ラクになる・楽しくなる家事」、「自分の時間をつくる」など、みんなで日々の暮らしの「工夫」について情報交換し、明日からの「暮らし」をもっと笑顔で、自分らしくすごせるためのヒントにしてみませんか？

日時 平成30年1月27日(土)  
13:30～15:00  
会場 「フレンテみえ」1階  
情報コーナーレクチャースペース  
対象 仕事と家事(育児)を両立中の女性 定員 10名程度

参加無料

2/7

## 結婚生活が息苦しい… モラハラについて考える Part.2

あなたは「殴られたり蹴られたりしていないから、暴力ではない」と思っていませんか？  
体を傷つけられることだけが暴力ではありません。「怒鳴る」「ののしる」「無視する」などの行為は「モラルハラスメント」と呼ばれる行為であり、精神的な暴力の一つです。夫からいつどんなことで怒られるかわからないと、いつもビクビクしていたり、自分の思うことを言えないうちに、いつのまにか「悪いのは自分だ」と思うようになっていませんか？夫が帰宅しただけでドキドキしたりすることはありますか？  
この講座でモラルハラスメントについての正しい情報を知り、なぜ夫の言動から息苦しさを感ずるのか考えてみましょう！

日時 平成30年2月7日(水)  
10:00～12:00  
会場 三重県総合文化センター内  
(詳細は参加者にのみお知らせします。)  
定員 8名 対象 テーマに関心のある女性

参加無料

※この講座は2017年7月13日に実施されたPart.1と同じ内容です。

2/17  
・24

## 平成29年度 女性のためのエンパワーメント・スクール 周りに・社会に流されないワタシになる！ 「このまちを“ちょっと”良くしたい！ 私の想い、話す、ツナガル。」

あなたが暮らすこのまち。子育ての環境や介護の問題について課題を感じていたり、まちをもっと元気にしたい！子どもの将来のために地球環境について考えたい！等々「もうちょっとこうだったらいいのに」「こういうところを変えたいなあ」と思いながら、なかなか行動にうつせないことってありませんか？そんな“想い”についてみんなでワイワイ話したり、“想い”をカタチにしている人の話を聞いたりして、自分の“想い”を見つけてみませんか。

日時 平成30年  
2月17日(土)・24日(土)  
両日とも13:00～16:00  
会場 三重県生涯学習センター2階  
まなびラボ  
対象 「ちょっと地域を良くしたい」と思いながら、まだ行動にうつせていない女性  
定員 20名程度

参加無料

3/10

## フレンテみえ情報コーナーミニセミナー おとこの“あみもの”どんなもの？ ～編み物男子・ことはじめ～

編み物は女性がするもの？いいえ、そんなことはありません。  
欧米では男性も親しむ編み物。日本でも最近編み物を趣味にもつ男性も増え、注目が集まりつつあります。  
これまでまったく経験のない男性のみなさん、ワイワイ語りながら初めての編み物を体験し、「編み物男子」デビューをしてみませんか？

※編み物の専門家による指導はございません。あくまでも「編み物ってどんなもの？」と感じながら、みんなで新しいことに一歩踏み出すためのセミナーです！

日時 平成30年3月10日(土)  
14:00～16:00  
会場 「フレンテみえ」1階  
情報コーナーレクチャースペース  
定員 8名 材料費 1名につき300円  
対象 これまでに編み物の経験が一度もない男性(年齢は問いません)

# Event Report

## フレンテみえ「カラダの日」

開催日 10月14日(土)

### 女性のこころと体セミナー

#### 更年期を気持ちよく過ごすために

講師 三重県立看護大学  
教授 大平 肇子さん 教授 白石 葉子さん

協力 ・公立大学法人 三重県立看護大学 地域交流センター  
・大塚製薬株式会社

イライラしやすい、気持ちが不安定になる、体が重くだるい…多くの女性が悩まされる更年期の症状。今回、定員を大きく上回るお申し込みがあり、更年期への関心・ニーズの高さを感じました。

講座では、まず、これらの症状が起こる仕組みや女性ホルモンについて学びました。また、筋力や骨密度アップにも効果のある下半身の引き締めトレーニングを実践。健康測定や腸内細菌チェックも行い、自分を客観的に見つめる時間となりました。

参加者からは「自分の体の状態を知り、安心できてよかった」「エクササイズは毎日続けてやっていけそう」「リラックスすることの大切さを実感した」といった声が寄せられました。

一生付き合う自分のからだをよく知ること、自分のからだを大切にケアすること。

更年期だけでなく、すべての世代の女性にとって必要なことかもしれません。



### 平成29年度男性講座

#### 知って得する男の更年期 ～ 30代から考えるからだメンテナンス～

講師 脇坂クリニック大阪 院長 脇坂 長興さん

みなさん、男性も更年期に不調を感じることもあるということをご存知ですか？今回の講座では、大阪で男性更年期外来がある脇坂クリニック大阪の院長、脇坂長興さんにお越しいただき、あまり知られていない「男性更年期」をテーマに講座を行いました。

男性の更年期の不調には、イライラやからだのだるさなど様々な症状がおこります。そういった症状を抑えるために、病院で行われている治療方法の紹介がありました。治療によって劇的に症状が改善する場合もあるそうで、脇坂先生からは、不調を感じたら病院で相談してほしい、というアドバイスをいただきました。

また、ストレスをため込むことが原因となる場合もあるそうです。そこで後半では、ヨガやアロマ、ハーブを使ったからだのケアを体験していただきました。参加者の皆さんはほとんど熱心に取り組まれ、積極的に自分のからだのケアをする大切さを実感していただける講座となりました。



### 女性に対する暴力防止セミナー

#### さかした日出美 一人芝居「電話の女」

開催日 11月19日(日)

毎年「女性に対する暴力をなくす運動」期間に開催している「女性に対する暴力防止セミナー」を今年度はお芝居という新しい形で開催しました。

古い友人からの電話で、友人に起こっている問題が見え、自分と夫との関係にも気づくというストーリー。女優さかした日出美さんの演技が胸にせまり、話を追っていくうちに、DV被害者が第三者に相談する難しさ、相談された時にどう対応すればいいのか、DVの実態等を考えさせられました。

お芝居の余韻冷めやらぬ中、制作に関わったDV被害者支援の民間団体「かけこみ女性センターあいち」のスタッフから、被害者支援の現実についてお話しいただきました。その後女性に対する暴力根絶のシ

ンボルである「パープルリボン」のミニイベントも行いました。

参加者からは「自分のすぐ隣で起こっていること、自分にも起こりうると思うことができた」「芝居という形はDVに対する理解を深めやすかった」「かけこみあいちの活動を聞いて事態の深刻さを知った」という声が聞かれました。



## 「明治の東京に生きた、女性プロ作家 樋口一葉」

河原 徳子(朗読文学サークル パティオ主宰)

樋口一葉がお札になった時、一葉一大ブームが起きたことは記憶に新しいことと思います。確かに「日本文学史」の近代のページのトップに「明治女流文学の最高峰」と銘うって記されているのが一葉です。お金持ちにはなれなかった一葉ですが、お札の顔には相応しい人かも知れません。

明治五年に生まれたのに、慶応三年生まれの夏目漱石より前のページで紹介されることが多いので、一葉を漱石より古い文学者だと思っている人も多いのです。もしかしたら、一葉と漱石が親戚または夫婦になっていたかも知れない……などと聞くと、興味津津の眼になる方も。一葉の書く「雅俗折衷体」の文章は、読みにくいこともあります。『たけくらべ』や『にごりえ』は一読して欲しい作品です。紫式部や清少納言のように宮中で仕事をしながら作品を書いた……というタイプではなく、作家として家でものを書いた、日本で最初の女性プロ作家だと言っていいでしょう。

樋口一葉は、勉強がしたくてたまらないにも拘らず、「女は学問などなくていい」という母親の考えで、学校での勉強を12歳で止めなければならなくなりました。「死ぬばかり悲しかりしかど、学校は止になりけり」と日記の中で書いています。

父は賢い娘にもっと学問をさせたかったようで、14歳の時、歌塾萩の舎に入門させています。その後、長男の死に続き、父も亡くなってしまいます。それから、戸主となった一葉の人生の苦悩が始まるのです。「おもえば誠にわれは女なりけるものを」と、女性である

自分を悲しく思わざるを得ない時代のことでした。

そのような一葉だからこそ、同じ女性が貧しさのどん底で苦しみがく姿を見て見ぬ振りには出来なかったのでしょう。花街丸山福山町に暮らした時、同性の窮地を救っています。女性が時には身も売るといふ銘酒屋のある町に居を構えていた一葉は、達筆・物書きの才能を活かして看板を書いてやったり、遊び女の恋文の代筆をしてやったりしていました。「浦島」といふ銘酒屋にお愛という女性がいて、貿易商の若旦那と相思相愛になり結婚したいと一葉に助けを求めました。当時では難しい結婚だったでしょう。一葉は友人や恩師に「身元引受」を頼みますが、人格ではなく履歴だけで判断する人々は逃げ腰です。その時、一葉が言った言葉が「厭とあらば、お前様、女子にはあるまじ」という名せりふでした。その後、一葉は一人で彼女たちを助けています。

佳境に入った『源氏物語』を肩で身震いしながら講義したという樋口一葉に一度逢ってみたかったと、頻りに思うこの頃です。

## 河原 徳子

- 徳島市生まれ
- 日本文学研究家
- 三重県生涯学習センター講師
- 「朗読文学サークル パティオ」(4部門)主宰
- 三重県立図書館・鈴鹿市民大学文芸学科・愛知県豊明市立図書館・安城市立図書館・知立市立図書館・菰野町文学講座・五十鈴塾文学講座・亀山市文学講座その他で、古典文学から近代文学まで講座講師を務める
- 鈴鹿市文芸賞選考委員
- 鈴鹿市文化振興ビジョン策定委員
- 主な著書『となりの文豪』(風媒社)



## Event Report

地域リーダー養成講座 in 尾鷲 男女共同参画編  
「誰もが安心できる避難所のために」

開催日 10月21日(土)



男女共同参画の視点を持って地域で活躍できる人を養成するこの講座。今年は尾鷲市で開催し、普段はフレンテみえの講座になかなか参加できない、東紀州の皆さんにもたくさんご参加いただきました。

今回は「誰もが安心できる避難所運営」をテーマに、多様性配慮の必要性についてレクチャーとワークで学びました。

参加者の皆さんはととても防災意識が高く、避難所に必要とされる備蓄品をあげていくワークでは、たくさんの意見が出されました。

参加者の皆さんからは「今回初めて知った情報もあった。」との声もあり、講座をとおして、災害時だけでなく災害が起こる前から男女共同参画の視点が必要なのだということを知ってもらえたのではないかと感じました。



4回シリーズ「三重県の男女共同参画の最近の動きと、これから」第3回目

三重県男女共同参画審議会会長 小川 眞里子

第3回

県の男女共同参画に関する統計データ

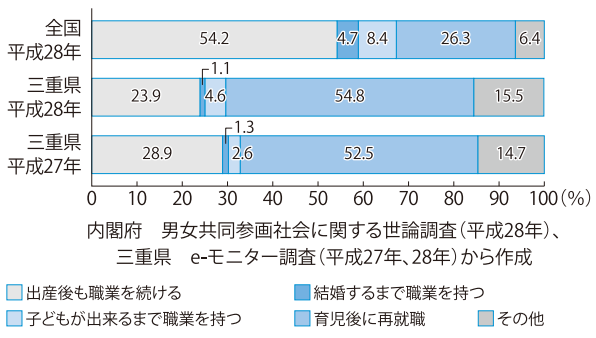
ベテランの佐伯先生のサポートを得て第2次三重県男女共同参画基本計画の改定(第1回参照)ができたのは幸いです。先生の第2回につなげて日頃感じていることを書くのですが、統計を重視する欧州委員会のジェンダー政策を見てきた私は統計が気になります。図は平成28年度実施の県のe-モニター調査「女性の職業への関わり方について」の結果を全国と比較したものです。「子どもの出産後も職業を持ち続ける」という意見に賛成する人の割合が、全国平均54.2%のところ、三重県は23.9%に過ぎません。しかも、女性活躍推進法の後押しもあり女性の就労は一層進むと思われる状況で、昨年より5%も減少しているのです。これにはショックを受けました。救いは、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識は年々薄れ全国平均を下回っていることです。

三重県では「子育ての時期が終わってから再び職業に就く(54.8%)」が、全国の「出産後も職業を持ち続ける(54.2%)」とほぼ同等です。女性は子育てが終わってから働くというのは、子育てを女性の役割に固定化し、男性は子育てから得られる豊かな経験の機会を失うこととなります。乳幼児期の子どもとの関わりは、その後の親子関係や近所付き合い、さらには介護に及ぶ家庭基盤の入門です。働き方改革を一層進め、男女が人生の豊かな経験の機会を共有すべきと思います。なお、これら継続就業、再就業の2つの数値については、世代別、性別の分析が欲しいところです。

次に、県の公表する統計データ1個を見るだけでなく、地域や市町に分けて見るのが重要です。とりわけ男女共同参画については、県全体における自分の市町の位置づけが明確にならなければ、地域のモチベーションは上がりません。そのためには、これまで以上に詳しい「女性の参画マップ」の作成が必要です。今年4月から四日市、鈴鹿、名張、伊賀、桑名、松阪、伊勢、鳥羽の各市を訪問させていただきましたが、地域の特色に配慮した工夫が印象的でした。伊賀市では女性の働き方について「職業を持ち続けるのがよい」という回答が半数近くに上り、これを受けて男性リーダー養成講座に踏み出しました。また同じ映画でも男女共同参画連携映画祭のやり方は開催地で大きく異なりました。

南北に長い三重県の各市町の男女共同参画担当者が集い情報を交換し、県は多面的な「女性の参画マップ」を作成する方向に動いて欲しいと思います。男女共同参画の指標となる統計を積み重ね、互いに数値の意味するところを学び合い改善を模索することが大切だと考えています。

女性の職業への関わり方について



執筆 小川 眞里子さん (三重県男女共同参画審議会会長)

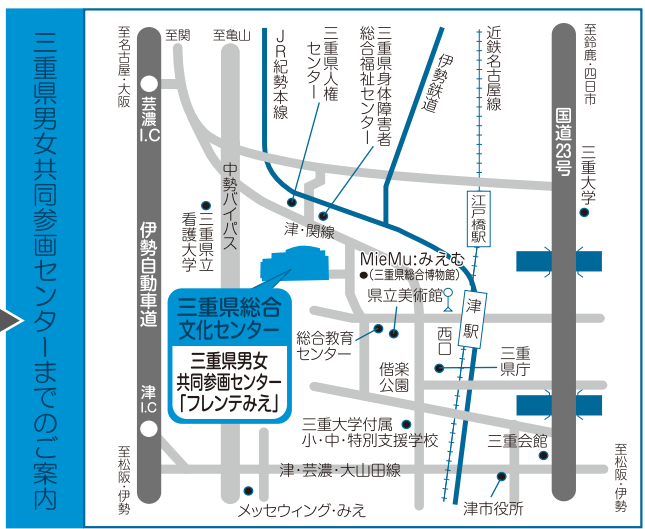
三重県の男女共同参画関係では平成7年10月から4年間、男女共同参画推進協議会委員を務める。平成27年より現職。専門は科学とジェンダーおよび19世紀医学・生物学史。三重大学名誉教授。

フレンテみえって、なに?

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください!

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ 検索



休館日 毎週月曜日 年末年始 (12月29日から1月3日まで)

交通 バス/津駅西口1番のりばから約5分 徒歩/津駅西口から約25分 自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分 ※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター 三重県男女共同参画センター フレンテみえ 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地 TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135 URL http://www.center-mie.or.jp/frente/ E-mail:frente@center-mie.or.jp

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど... 男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30	休館日	●	●	●	●	●	●	●
夜 17:00~19:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室の案内 (切り取ってご利用ください)

